

3 社会連携・社会貢献

		中期目標	中期プラン				総括（2014～2017年度）	
項目	目標	ロードマップ				プラン内容	実施結果報告	達成度 %
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
1	明治大学を拠点とした世界につながるヒューマンネットワークの構築・活用	世界的なヒューマンネットワークとしての「オール明治」の一体感の醸成及び各種事業における活用	<p>① 国際社会連携の推進</p> <p>② スポーツ振興、校友と協同した人材育 計画の策定 → 計画に基づく実施</p>				<p>①2014年度に「明治大学サイゴン紫紺会」の協力の下、「第1回ホーチミン市特別講座」が開催され、(学)明治大学理事長付特任アドバイザーである北野大 元理工学部教授の講演を実現した。</p> <p>2015年度及び2017年度に「中購聯中国購物中心發展委員会(中国ショッピングセンター協会)」からの受託研修を実施し、経営者層が総計27名参加した。</p> <p>②2014年に竹田 恒和JOC会長の講演会及び2015年に柔道泉浩氏の講演会並びに2017年度にはオリンピックをテーマにした講座を2講座開設した。</p>	85%
2	教育・研究・社会連携という大学の中核機能を高度化することによる社会と地域の発展への寄与	信頼される地域コミュニティの中核的存在	<p>① キャンパス所在地域の自治体と提携した協定に基づく連携事業の推進</p> <p>② ICTを利用したネットワーク型の拠点形成 委員会の設置 → 中長期計画策定 → 計画に基づく実施</p>				<p>①キャンパス所在地域の自治体と提携した協定に基づく連携事業の推進</p> <p>ア)駿河台キャンパス:地域・自治体や文化的活動を中心とした様々な分野で活動している諸団体との連携強化。イ)和泉キャンパス:杉並区との連携強化に加えて、明大前商店街や世田谷区との地域連携を推進。ウ)生田キャンパス・黒川農場:包括協定または覚書締結等による共同事業の推進。エ)中野キャンパス:中野区との連携、産業育成支援(産官学民連携事業)</p> <p>②ICTを利用したネットワーク型の拠点形成:地域と全学的に連携するために、地域連携推進センターを中心に地域連携の取り組みのハブ的機能充実を組織的に推進する。</p> <p>このために、2014年度に関連部署と協議する委員会を設置し、2015年度前期までに中長期計画を策定し、2016年度から事業を推進する。</p>	75%

3 社会連携・社会貢献

項目	中期目標 目標	中期プラン				プラン内容	総括（2014～2017年度）	
		ロードマップ					実施結果報告	達成度 %
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
3 地域社会・産業・行政との連携による社会的課題に対応するプロジェクトの推進	研究成果の社会還元及び地域社会・産業・行政との連携による社会的な課題の解決					<p>①自治体との包括的連携協定の新規締結（年間目標1自治体） 効果的な連携事業推進のために戦略的な見直し</p> <p>②創業者出身地・協定締結自治体等との包括連携の推進； 学生（留学生含む）の自治体派遣事業ならびに人材育成事業の実施。</p> <p>③産官学民連携事業の推進；付属研究施設や連携自治体による産官学民連携事業の構築や深化のために、人材育成プログラムを推進する。 外部資金の獲得による受託事業の受け入れも推進する。</p> <p>④このために、ア）2014年度中に社会連携機構や国際連携機構・研究・知財戦略機構等が協力して中長期計画を策定し、それぞれの情報を共有する。イ）2015年度から当該計画を推進する。</p>	<p>①2015年度に世田谷区及び群馬県富岡市、2016年度には鳥取県鳥取市と連携協定を締結した。また、2017年度には、効果的な連携事業推進のための戦略的な見直しの一環として、既存協定の有効期限について有期・無期を調査し、連携内容を精査した上で更新可否を決定していくこととした。</p> <p>②毎年創業者出身地への学生派遣プログラムとして、夏期休暇期間を利用して鳥取県、福井県鯖江市及び山形県天童市に学生を派遣しており、2016年度から名称を「ふるさと活動隊」とし、参加した学生がその地域を「自身の新たなふるさと」として捉え、派遣プログラム終了後も地域活性化への取り組み等に継続参加していきかけとなるような仕組みにした。2017年度の活動では鯖江市の活動に留学生が3名参加し、鯖江市の魅力や留学生の視点で伝える政策提言をする等、各地域における学生の活動が高く評価され、新たな政策として実現される事例も増加した。</p> <p>③山形県天童市においては、毎年「てんどう笑顔塾（年5回）」、「てんどう未来塾（年7回）」、「てんどう女性塾（年3回）」を開講し、本学の有する知的財産及び人的ネットワークを活用して市民に対して質の高い生涯学習の機会を提供し、地域ニーズに応じた人材の育成に寄与している。また、東京都府中市においても地域の生涯学習の担い手（生涯学習ファシリテーター）の育成と活用のため、「ファンリテーター養成講座」を毎年開催し、人材育成プログラムとして高い評価を得ている。また、兵庫県豊岡市において、毎年「豊岡市民協働戦略マネジメント研修」を受託しており、本学の知的財産を活用した外部資金獲得事業を展開している。</p> <p>④社会連携機構において中長期計画を策定し、学長方針に反映をすることで学内他機構による事業との連携及び一体化を図り、当該計画を単年度事業に落とし込んで推進している。</p>	80%

3 社会連携・社会貢献

項目	中期目標	中期プラン				総括（2014～2017年度）		
		ロードマップ				プラン内容	実施結果報告	達成度 %
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
4 主要キャンパス等における生涯学習の機会提供	リパティアカデミー・公開講座の充実	<p>履修証明制度カリキュラムの作成・実施 カリキュラムの策定 計画に基づく実施</p>				<p>受講生の継続的な学習を支援・奨励するため、公開講座の充実を図る一方で生涯教育の内容の高度化を図り、多様なニーズに応えるカリキュラムを設置し、生涯教育の内容の高度化を図るため履修証明制度の活用をすすめる。</p> <p>このために2015年度から履修証明制度を導入し、生涯学習のさらなる可能性を模索する。</p>	<p>2015年4月から履修証明制度を利用した「女性のためのスマートキャリアプログラム」を開発。昼間コースとして仕事復帰を目指す女性を支援するビジネスプログラムを展開している。2015年9月からキャリアアップ・管理職を目指すビジネスパーソンを育成する夜間・土曜主コースを展開し、企業からの受講生派遣を受け入れる等、女性活躍支援政策に寄与している。</p> <p>2015年度～2017年度末までの履修生は252名となり、履修証明書の交付を受けた修了生は222名となっている。（※なお、経常費補助金の特別補助の要件の一つとして、補助金が交付されている。）</p> <p>また、当プログラムは2016年10月に専門実践教育訓練給付金対象講座として認定され、学び直しの機会増大に寄与している他、加藤勝信一億総活躍大臣及び文部科学省・経済産業省・厚生労働省並びに他大学からも多数視察を受け入れており、我が国の女性活躍支援機会振興に貢献している。</p>	90%
	各キャンパスのリパティアアカデミーの充実	<p>各キャンパスでの講座展開 カリキュラムの策定 計画に基づく実施 企業受託研修の展開</p>				<p>①【駿河台キャンパス】 世代間交流の場を提供するとともに諸団体との連携を強化。 ②【和泉キャンパス】 図書館を核に地域との「地（知）の交流の拠点」としての役割を図書館、和泉委員会等とも連携をとりつつ推進。 ③【生田キャンパス・黒川農場】 地域連携推進センター、平和教育登戸研究所資料館や黒川農場を活用した地域連携・生涯学習・平和教育を展開。 ④【中野キャンパス】中野における社会連携拠点としての機能を充実。 ⑤【企業受託研修】 ビジネスプログラムのスキームを活用し、企業・自治体向けに企業受託研修を行う。</p> <p>上記を遂行するため、リパティアアカデミー運営委員会において、各キャンパスにおける講座展開の中長期計画を策定し、実施する。</p>	<p>①ビジネス講座、教養文化講座、資格実務語学講座の3カテゴリーによる講座を展開しており、受講生の平均年齢は、それぞれ約42歳、約67歳、約41歳となっており、幅広い世代の受講生が駿河台キャンパスに集っている。2014年度には太平洋諸島センター（PIC）共催講座を2講座設置、2015年度はこれに加え「本の街・神保町を元気にする会」との連携を強化、2016年度、2017年度講座では60名を超える受講生を得た（満員御礼）。</p> <p>②2014年度には図書館共催によるオープン講座が図書館ホールにて開催され、多くの地域住民の参加をいただき、時宜にかなったテーマによる特色ある講座を2014年度～2017年度まで毎期展開し、地域住民の継続的な学びの深化に寄与している。また、各講座は杉並区教育委員会共催講座となっている（助成金有）。</p> <p>③2014年度から地域連携推進センターとの共催講座を展開。2017年度には大学発ベンチャー企業との連携を実現した。平和教育登戸研究所資料館を使用した講座は2014年度から年2講座（計10講義）を連続して開講しており、特に小田急線沿線の受講生を多く獲得し、平和教育の展開のみならず、地域住民に開かれた事業展開を実施した。黒川農場においては市民向け有機農業講座を黒川農場開設と同時に開講し、60名を超える受講生が積極的に学び続けている。</p> <p>④2014年度には38講座を展開。2016年度には54講座を展開するまでに成長した。中野ブロードウェイ商店街、帝京平成大学及び中野区立図書館との連携を実現。先端数理科学・インスティテュート連携講座も開設し、地域に対しキャンパス所在地に設置する学部の研究分野について認知度向上を実現した。</p> <p>⑤2014年度には6社、2015年度は3社、2016年度は4社、2017年度は7社から「企業研修」を受託し、本学の知的資産を活用した外部資金獲得の重要な社の一つとして成長を続けている。</p> <p>2017年度リパティアアカデミー運営委員会において、各キャンパスの講座実施状況に鑑み、2018年度以降の各キャンパスにおける講座展開について方針を決定し、20周年を迎える節目である2019年度以降の展開について、2018年度に再度検討していくこととした。</p>	85%

3 社会連携・社会貢献

		中期目標	中期プラン				総括（2014～2017年度）		
項目	目標	ロードマップ				プラン内容	実施結果報告	達成度 %	
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度				
5	人権、男女共同参画、環境保全、文化の発信、スポーツ振興、平和教育に関連した社会貢献活動の推進・支援	社会貢献活動の推進	<p>人権、男女共同参画、環境保全、文化の発信、スポーツ振興、平和教育に関連した社会貢献活動</p> <p>計画の策定 → 計画に基づく実施</p>				<p>課題を担当する部署がそれぞれ検討し、計画を策定する。全体の目標を共有し、2016年度から各計画に基づき実施する。</p>	<p>① 本学の建学の精神「権利自由 独立自治」に則り、「教育」「研究」活動に加え、学校経営においても、人権に配慮するとともに、人権教育及び啓発活動を拡充し、大学全体の認知度向上を達成した。                  ② 平和教育登戸研究所資料館を活用した、本学学生及び学外者への「平和」啓蒙を通じた平和創造へ寄与するため、登戸研究所に関連する講座を2014年度に3講座、2015年～2017年度に2講座ずつ開設した。                  ③ 全学的環境マネジメントシステム(全学EMS)を整備・運用していくことで環境保全を図ることに加え、環境教育を全学的に実施し、環境に配慮した行動及び活躍ができる人材を育成するとともに、適切な内部環境監査を実施して、その継続的な改善を達成した。                  ④ 2014年度に採択された文部科学省平成26年度科学技術人材費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」(実施期間2014～2016年度)の取組として、以下のことを実施した。1) 男女共同参画推進センターの設置、2) 男女共同参画推進基本計画の策定、3) 研究とライフイベントとの両立支援制度(研究補助者派遣制度、保育費用補助制度)の整備、4) 研究者交流会の開催、5) 国際シンポジウム・公開講座・トークイベント等の開催、6) ロールモデル集の発行、7) ホームページの開設、8) ニュースレターの発行、9) 学内教職員等を対象としたアンケート調査の実施。これらの取組は、ライフイベント中の女性研究者の研究業績の向上や教職員等の男女共同参画に対する意識の向上等に結びつき、男女共同参画社会の実現に寄与した。事業の事後評価について、大学全体としての推進体制の構築、男女共同参画に係る意識改革の推進、及び女性研究者の活躍促進のための基盤整備等の取組が評価され、総合評価「A」と評価された。2017年度は事業で構築した基盤を軸に、ダイバーシティの観点から、両立支援制度の利用資格拡大等を進めるとともに、次世代の研究者育成に関わる新たな取組を展開した。</p>	90%